

学発番号: 学18-049★
事業名: 臨床化学免疫血清研修会(日臨技推進事業研修会)
日時: 平成31年2月11日(月) 9:00~17:00
場所: 京都保健衛生専門学校 視聴覚教室
主 題1: 酵素法 終点分析法を基礎から学ぶ
講 師1: 藤本 一満 技師(倉敷芸術科学大学)
主 題2: 酵素法 H₂O₂-POD系を用いた基質測定
講 師2: 藤本 一満 技師(倉敷芸術科学大学)
松原 卓也 技師(大阪府済生会千里病院)
岡崎 一幸 技師(京都大学医学部附属病院)
北菌 竜彦 技師(京都第二赤十字病院)
一瀬 亮介 技師(東近江総合医療センター)
参加数: 総数:27名(京臨技会員:5名)
報告者: 岡崎 一幸(京都大学医学部附属病院検査部)

以下、講演内容など

今年、GLU測定を題材にし、H₂O₂-POD系を理解するための基礎知識・技術の習得を目的としました。午前中は午後から実施する実技で使用する試薬の構成や原理などを学び、参加者自ら測定試薬の計算・調製を行いました。
午後からは、各班に分かれて、グルコースを測定する波長を決定するための吸収極大の算出や、1ポイント法と2ポイント法の違い、試薬の基礎性能の検討となるアスコルビン酸や乳びの影響について検討しました。また反応試薬にフェノールを使う場合とTOOS試薬を使う場合での反応系の違いを確認しました。日頃、出来上がった試薬・分析機・パラメーターを用いており、原理や試薬組成まで確認することが少ないなか、改めて測定系を理解するのに大変良い機会となりました。その後、各班の指導者を交えて活発なディスカッションが行われより一層理解を深めることが出来ました。